

協賛：マザーズグループ（夢市場株式会社、株式会社にんじん、マザーズブランド、株式会社はまなす、マザーズマクロビオス）  
有限会社けるふ農場、D.K.Zeit Co.Ltd

# 石牟礼道子『苦海浄土 わが水俣病』原作

# ひとり芝居「天の魚」

出演  
川島宏知

原作 || 石牟礼道子  
構成・脚色 || 川島宏知  
潤色 || 岡村春彦  
演出 || 砂田明



「水俣」から考える

## アフタートーク

(「天の魚」終演後に休憩をはさんで予定)

5・13(水) 加藤登紀子×最首悟

「『苦海浄土』と東京大学 二つの、一九六九」

\* 加藤登紀子さんの歌あり

5・14(木)

立岩真也×鬼頭秀一

「一九六九」から考え方

5・15(金)

今福龍太×星埜守之

「石牟礼道子文学と群島－世界論」

会場：駒場小空間（東京大学駒場キャンパス内）

日程：2009.05.13Wed-15Fri OPEN 17:30 START 18:00 \*整理券を16時45分から配布

入場：無料（全日程）\*カンパをお願いする場合があり。

座席数：200席（予定）+立ち見 \*バリアフリー

製作：東京不知火座

企画・運営：「不知火グループ」（事務局 「最首塾」内）



Homepage : [http://www.geocities.jp/saishjuku/tennoio\\_2009/tennoio.html](http://www.geocities.jp/saishjuku/tennoio_2009/tennoio.html)

E-mail : [saishjuku@yahoo.co.jp](mailto:saishjuku@yahoo.co.jp) Tel : 090-9971-6642 (世話人 丹波博紀)

——あねさん。魚は天のくれらすもんでござります。

天のくれらすもんをただで、

わが要るし恥うし、ひとつその日を暮らす。

これより以上の榮華のどけえいけばあろうかい。

# ひとり芝居 「天の魚」

2009年5月13日(水)14日(木)15日(金)

## 「水俣」から考える三日間

紀伊国屋演劇賞特別賞受賞(1981年、砂田明)  
の舞台、約30年ぶりの東京大学公演！！

2009年は、石牟礼道子『苦海淨土 わが水俣病』(1969年)が刊行されて40年目にあたる。これを機に、これを原作とするひとり芝居「天の魚」を通じて、「公害の原点」水俣病を学び、現在わたしたちが営む生活や社会のあり方、または学問や大学とは何であるかを問い合わせ、わたしたちの希望のありかについて考える。

### STORY:

1964年初秋の熊本県水俣市。“あねさん”こと石牟礼道子は百間港に近い水俣市江添の丘の上に、江津野空太郎少年とその一家をたずねる。百間港は、ながく馬刀湯とよばれてきた貝の宝庫で、江戸の初期から美味をもってきこえた「水俣塩」の発祥地となつた入江であった。しかし、それからほぼ300年あとの水俣病の爆心地となったところである。江津野家は、その百間港の片隅を舟溜まりとする一本釣りの専業漁家である。一家の大黒柱で、見るからに老い先みじかい江津野老を中心には、その妻、そのひとり息子の清人、そして彼の三人の息子で暮らしている。清人はそれとわかる水俣病で、彼のあいだの子でその時9歳の空太郎少年も胎児性の患者であった。水俣病は発生当初から奇病や伝染病として恐れられ、その後もながく「貧乏漁師のなる病気」として、忌避されつづけてきた。だから、めったに来ない客人を得て江津野老はとても機嫌がよい。“あねさん”は老人に江津野家の家宝である「九竜權現さま」を拝ませてほしいとねだる。この家宝は江津野老が天草から水俣に流れてくる時、親から譲り受けた運氣の神さまであった。上機嫌な江津野老はこの家宝に加え、神棚の神さまたちを次から次へと“あねさん”に紹介すると、焼酎をちびちびと始め、酔いどれ気分で海と空とのあいだにあつた自らの半生を語り出す。そして、それを空太郎少年の野ぶどうの粒のような黒いぱっちりした眸が見つめているのだった……。

**スケジュール:** 全日程、入場無料  
(カンパをお願いする場合があります)

5月	13	14	15
18:00 天の魚公演	水	木	金
19:30 アフタートーク			

\* 整理券を16時45分から配布

### アフタートーク:

5月13日(水)

加藤登紀子(歌手)×最首悟(元東京大学教養学部助手)  
『苦海淨土』と東京大学 二つの“1969”  
\* 加藤登紀子さんの歌もあります

5月14日(木)

立岩真也(社会学者)×鬼頭秀一(環境倫理学／科学技術社会論)  
“1969”から考え継ぐ

5月15日(金)

今福龍太(文化人類学者)×星埜守之(仏文学者)  
石牟礼道子文学と群島-世界論

### お問い合わせ:

ホームページ: [http://www.geocities.jp/saishjuku/tennoio\\_2009/tennoio.html](http://www.geocities.jp/saishjuku/tennoio_2009/tennoio.html)

電話: 090-9971-6642 (世話人丹波) E-mail: [saishjuku@yahoo.co.jp](mailto:saishjuku@yahoo.co.jp)

### スタッフ:

【原作】石牟礼道子『苦海淨土』【構成】砂田明 【潤色】川島宏知 【演出】岡村春彦 【舞台監督】小野瀬弥彦 / 桑谷昌洋  
【照明】小澤明彦 【音響】井出比呂之 【製作】東京不知火座(Homepage: <http://www.tennoio.jp/>) E-mail: [info@tennoio.jp](mailto:info@tennoio.jp)  
【企画・運営】「不知火グループ」(代表: 最首悟、星埜守之) 事務局: 「最首塾」内 (<http://www.geocities.jp/saishjuku/>)

**賛同人**(敬称略・50音順、特に本公演に対する賛同も含まれる。2009年4月27日現在)

阿木幸男(河合塾コスモ講師)、石黒聰(学生)、石牟礼道子(作家、原作者)、稻垣聖子(大学院生)、今関惇(「悶問」世話人)、今福龍太(文化人類学者)、梅原宏司(大学院生)、大川正彦(政治学・東京外国语大学)、緒方正人(漁師)、おしたようこ、甲斐扶佐義(写真家・ほんやら洞/八文字屋)、金子淳人(哲学・大学講師)、金森修(科学思想史・東京大学)、川崎那恵(大阪市立大学卒業生)、川浪寿見子(くらし公房)、川本隆史(倫理学・東京大学)、鎌田行平(社団法人千葉県人権啓発センター常務理事)、鬼頭秀一(環境倫理学/科学技術社会論・東京大学)、金永洙(神父・神の愛の宣教師団)、久保田好生(東京・水俣病を告発する会)、栗原彬(政治社会学・立教大学名誉教授)、暮尾淳(詩人)、黒住真(倫理思想・教員)、小松美彦(科学史/生命倫理学・東京海洋大学)、最首悟(環境哲学・東京大学助手)、坂西卓郎(水俣病センター相思社)、佐藤靜(大学院生)、下澤元(自営業)、白石忠男(自営業)、白山映子(大学院生)、砂田エミ子(砂田氏遺族・脚本著作権者)、高石伸人(ちくほう共学舎「虫の家」)、高草木光一(社会思想史・慶應義塾大学)、竹村洋介(社会学・大学教員)、田嶋いづみ(「水俣」を子どもたちに伝えるネットワーク)、玉木明(ジャーナリスト)、丹波博紀(大学院生)、土本典昭(映画監督=故人)、堂前雅史(科学技術社会論・和光大学)、時枝俊江(映画監督)、外村大(日本近現代史・東京大学)、中田千絵(和光大学卒業生)、中野浩(大学院生)、新居草太(学生)、西岡智理子(和光大学卒業生)、旗野秀人(新潟・冥土のみやげ企画)、花崎舉平(哲学者)、原田正純(医師)、廣野喜幸(科学史/科学論・東京大学)、福永真弓(環境社会学/環境倫理学・立教大学)、藤本素子(前水俣市議会議員)、現ガイヤみなまた職員)、保坂のぶと(衆議院議員)、星埜守之(フランス文学・東京大学)、前田保(滝沢克己協会・大学講師)、丸山真人(環境社会学・東京大学)、米沢慧(批評家)、渡辺京二(批評家)、渡辺容子(杉並の不当な教科書採択取り消し裁判の会)

